

『湊川隧道保存友の会』の皆様へ

兵庫区長 森 政勝



兵庫区は神戸市発祥の地であり、9区の中で最も古い歴史と伝統を有したまちです。現在NHKで放映されている「義経」の中で舞台となっている場所も点在しています。

また、兵庫区は現在でも下町情緒、人情味が残っている町でもあります。昨年4月に兵庫区長に就任して以来、常日頃強く感じている点であります。

こういった点を活かし、兵庫区の目指すべきまちの将来像として「やさしさと思いやりのまち」を掲げ、その実現に向けて、区民の皆様と一緒にになってまちづくりを進めているところであります。

さて、兵庫区は100年の歴史をもつ近代土木遺産が3つあります。兵庫運河、鳥原貯水池、そして湊川隧道です。この隧道を歴史資源として保存し、後世に伝えていくため、友の会が結成されました。そして平成14年11月には見学会、平成15年11月にはコンサートを開催されるなど、積極的な保存活動に取り組んでこられました。こうした会員の皆様方の日頃の活動に対し、改めて敬意を表する次第です。

兵庫区では、平成12年に兵庫区歴史花回道構想を策定し、兵庫区の由緒ある歴史を活かしたまちづくりを進めています。言うまでもなく湊川隧道は、歴史花回道の新たな名所として、大変重要な歴史的遺産であると考えています。

今後とも「湊川隧道保存友の会」のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念して、ご挨拶とします。

湊川隧道ニュース

第1回新湊川まつり

平成16年9月12日（日）に、新湊川の美化活動などを行っている「新湊川を守り育てる会」が、兵庫区の新湊川沿いにおいて“第1回新湊川まつり”を開催しました。

幸いに天候に恵まれ、新湊川河川防災ステーションの広場でのコンサートや新湊川沿いの緑道での縁日、スタンプラリーなどに大勢の人が楽しまれました。

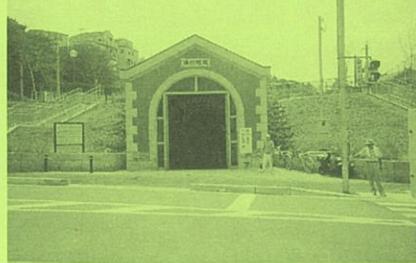
湊川隧道保存友の会は、この祭りに協賛して湊川隧道の一般公開を行いました。入場者は約600名あり、10名の役員・幹事と10名のボランティアにより、誘導・案内及び湊川隧道の紹介を行いました。



熊野橋～夢野橋での縁日風景



新湊川ふれあい広場でのコンサート



湊川隧道入口



隧道内見学の様子

新湊川ウォーク

平成16年11月3日、文化の日に新湊川の洪水対策のために建設を進めてきた石井ダムの試験湛水（ダムや貯水池周辺の安全を確認するために試験的に水を貯めること）を記念して「新湊川ウォーク」が開催されました。このウォークは神戸県民局が主催し、湊川隧道保存友の会は隧道内の案内や誘導等をボランティアの方々にお願いし、協力しました。

コースは石井ダムから新湊川沿いに長田橋まで約9Kmで、約1000人の参加者が3時間程度かけて歩きました。天気もよく、豊かな自然と、壮大なダムを眺めながら歩く石井川や新湊川沿いには、隧道のほかにも烏原貯水池の立ヶ畠ダムや阪神大水害慰靈塔など歴史を感じさせるものがたくさんあり、あらためて神戸は歴史的・文化的に楽しむことができる地域であることを実感しました。



隧道上部の公園にて、田辺先生の講演会



隧道内見学の様子

ボランティアの感想



南部 真知子

人の縁は不思議なものです。私の関わっている明石海峡大橋までのクルージング船で、お客様に海から見た神戸の歴史を説明できるよう田辺真人先生に社員研修をお願いしたことがあります。そのとき先生が話された湊川隧道の、美しい御影石の敷石のことが私の脳裏から離れませんでした。いつか明治の先人が残した渾身の遺構をこの目で確かめたい・・・多少不純なこの想いがこの会に入らせて頂いた動機です。

人間の幸せはいろんな形をしていますが、新しいことを知る喜びは幸福への切符ではないでしょうか。知ることはそれを好きになり、愛することになる一歩です。神戸という町にお世話になっている私たち。その神戸が湊川隧道のように歴史的価値の高い遺産を持っていること、湊川を付け替えると願った当時の市民が、辛苦を乗り越えその「夢」を現実させたこと、そして震災後建設された新湊川トンネルのことも知ってほしいと思います。

この隧道に入られた方々が、つたない私の説明で先人の偉業をお知りになり、神戸をより好きになってくださいればボランティアとして本望です。そうすれば愛する町神戸のために何かをしたい!と思う人たちが増え、神戸はもっともっと力強い町になれるはずですから。



花田 清治

これまでに2回、パネルのボランティアを担当しましたが、見学者が小学校低学年から65歳以上の高齢者の方まで年齢の幅が非常に広く、参加者も大変多いのにびっくりしております。

ボランティア活動も、まずは多数の見学者が来てくれないことには始まらないもので、これはイベントの企画が上手く運営された証だと思っています。

友の会、神戸県民局のスタッフの方々に感謝しております。

見学者からの積極的な質問は、少ないです。1時間に1件程度です。その内容も、「旧隧道は通り抜けできますか?」「この隧道はいつも開いていますか?」などで、特に難しい歴史的、技術的な質問はほとんどありません。むしろ見学者の中に高い専門知識を持っている人が多々いて、その人が自問自答され、逆にこちらが講習を受けている状態で、これを素早く吸収し、うけうりの説明でボランティアに活かしております。これが、結構、勉強になっています。

ボランティアでは、このような貴重な土木遺産が身近な地域にあることに誇りを感じていることをPRに努めています。引き合いとして、明石海峡大橋が現在、将来とも、日本が世界に誇れる土木橋梁が、兵庫県にあることがいかに凄いことかを知り、隧道ともども、心の誇り、遺産として、生きがいの礎になることを期待して、PR、説明をしています。

これからも、隧道について幅広く、深く説明できるように、スキルアップに努め、見学者に的確な情報の提供に注力し、微力ながら、友の会の発展に寄与したいと思っています。



門前 弘

『湊川隧道』は、明治34年8月（1901）湊川付替え工事に伴い竣工した今を去る一世紀以前に世界屈指の規模を誇った馬蹄形のトンネルである。

ツルハシとノミによる手掘作業、煉瓦の長手積み・豊積み併用の技法を採用した内壁、煉瓦の上に花崗岩の切石を敷く構造の河床によって出現した断面積45平方m・延長670mを誇る雄大な建造物であった。

新湊川の100年の歳月は長く、過去度重なる大災害を被り、平成7年発生の阪神・淡路大震災では隧道の吐口付近の崩壊・内壁煉瓦の剥離を始め、河川の広範囲で著しい被害を受けた。

新湊川の災害復旧助成事業（平成14年度）によって、新湊川トンネルが開通し、河川大改修は完了した。『湊川隧道』は補修を施し約350mが保存され、余生を送る身となった。

平成14年11月4日待望の初回一般公開。2000人以上の見学者が好奇心一杯で隧道に足を運んだ。隧道内の案内・質問に対する説明は、上手くいったと自信していた。

初回の事でもあり、隧道内部の整備不十分の感は多少抱いて居たが、照明度の不足・浸透水による壁面の汚れと光沢・河床湧水の趣は寧ろ幻想的でもあり写真撮影等には絶好の光景であろうと小生は考えていた。

ところが後日のアンケート集計では全く正反対の指摘があり、『見学者のニーズには参った』と感覚の隔たりを痛感した。

平成15年11月30日第2回公開は『隧道内でコンサートを』との要望に答えて企画された由。朝からの雨模様は好転し、1000人を超す入場者を迎えて戴けた。『大成功の反応』が伺えた一日であった。

小生は隧道内の案内役を担当。当日隧道内温度15度C・湿度70%耳の調子不快と日記に残している。湿度・音響の関係?不可解であった。

平成16年11月3日第3回公開ボランティア活動を無事終了した。
次ぎは見学者に、『湊川隧道』の秘める魅力を伝えよう!!

幹事の寄稿

寒川 美樹



湊川隧道保存友の会は、「湊川隧道のすばらしさに感動した」地元住民、学識者、民間コンサルタント、行政などが協力し合い結成された、誰でもが気軽に参加できる団体です。

友の会の活動である見学会が開催されるまで、会下山公園の下にこんなにすばらしいトンネルがあることをほとんどの地元住民の方は知らなかったのではないかでしょうか。多くの人に隧道を見てもらい、その存在、すばらしさを社会に知らしめた友の会の功績は非常に大きいと思います。

見学会では東山地区防災福祉コミュニティの方々をはじめ、大勢の会員の方々がボランティアとして、見学者が安全に見学いただけるよう誘導を行っています。一昨年には見学会前にスタッフが湊川隧道の歴史等を学ぶ学習会を行い、見学会当日にはボランティアの方が見学者からの質問にもスラスラと答えられているのを見て非常に心強く感じました。

今後は、「隧道の公開」から「隧道の活用」に向けて、会員の方々の知恵をさらに結集して、地域に愛される隧道になるように頑張っていきましょう。

長谷川 健



幹事を務めさせていただいている長谷川です。

私は土木設計の仕事に携わっており、いわゆる「土木屋・河川屋」として仕事をしています。職場は兵庫警察署の北隣にあり、湊川隧道とは目と鼻の距離です。そのため、地元という意識で「湊川隧道保存友の会」の行事に参加しています。

土木の仕事では、つい最近までは安全を重視したあまり、過去の古いものは取り壊し、近代的な技術を用いて新しいものを造るということが主流でした。しかしながら最近では古い土木構造物の良さが見直され、その機能や景観を保存するようになってきています。この中で湊川隧道を保存していただき、このすばらしい土木遺産を後世に残す機会に出会え、土木屋として大きな喜びを感じています。

「湊川隧道保存友の会」は今年7月で発足4年を迎えます。その間、新湊川災害復旧事業の竣工式典や新湊川まつり、新湊川ウォークなどとの協賛により湊川隧道を公開し、湊川隧道の知名度もある程度確立できたと考えます。今後は、このすばらしい土木遺産である湊川隧道をどのように活用し、守り育していくかを大いに考えていく必要があると思われます。また「新湊川を守り育てる会」との連携も大切と考えます。

私も会員の一人として、今後の「湊川隧道保存友の会」の発展をみなさんと共に考えていきたいと思います。

優れた芸術作品との出会いのように。

神戸アートビレッジセンター美術担当 木ノ下智恵子

1905年（明治38年）11月、湊川の付け替えによって誕生した「新開地」にとって、「湊川隧道」はまさしく源泉と言えるゆかりの深い場です。

私が「湊川隧道」と出会ったのは、アーティストや研究者などをナビゲーターと位置づけ【人・まち・アートが出会い共生する魅力的なまちづくりの実験】として2002年より実施している「新開地アートストリート（SAS）」でした。

SAS第一弾『新開地アートブックプロジェクト～まちの地質調査～』のメインナビゲータに美術家の井上明彦氏を迎え、プロジェクトチーム「曙団」（かつて新開地を徘徊していた輩の通称）を結成。当初、湊川公園までの新開地地区を対象としていた本プロジェクトは、井上氏と曙団の「消えた湊川を新開地の地下に探す」という飽くなき探求心に導かれ、北は「湊川隧道」のある会下山から南は松尾稻荷や川崎重工のある港にまで拡大しました。そのアーティストならではの独創的なフィールドワークによって「湊川新開地ガイドブック」が完成。冒頭には、湊川の存在と付け替えの歴史、携わる人々への敬意を込めた井上氏の想いがこもった文章と「湊川隧道」の瞑想的な姿が掲載されています。このオリジナルなまち歩きの提案をしているガイドブックは、発行物として全国各地の人の手に渡り、個々の脳裏で新開地を旅して頂いています。

以後、本プロジェクトは新開地との関係性において、これまで幾度と「湊川隧道」を訪れるプログラムを企画させて頂いておりますが、その際に留意している点があります。それは「湊川隧道」の景観や文脈を如何に害さずにその時空を体感して頂けるかということです。

昨今、歴史的建造物や土木遺産の文化イベントによる活用は日本各地で行われ、私自身、大阪の幾つかの場でその種のプロジェクトを手掛けたことがあります。そういう観点から「湊川隧道」は、表現者達のイマジネーションを十分に刺激し、作品を発表する文化装置として申し分のない環境です。しかしながら、近代都市の形成に不可欠であった土木建築として、偉大な人力と技術が注がれ、水の通り道の役目を終えた現在、長い時間的経緯を経て佇む存在そのものが人々を魅了する根本です。その前提を欠いて、自己満足的な作品発表や安易なイベント会場として活用されることに違和感と矛盾を感じます。むしろ、ここでの主体は作品や人ではなく、希少な文化遺産としての湊川隧道であり、あるがままに保存されることの重要さを謳うことが最優先でしょう。この場合、その存在を知る【いざない】として企画を位置付け、壮大な時空に佇むための機会をささやかに提供することが相応しいと考えます。

（この追加減や評価軸が難しいのですが、、、。）

2005年・秋、新開地は100歳になります。この記念すべき時を迎えるにあたって、湊川公園・メトロ神戸など、新開地を象徴する場所（トポス）のポテンシャル（潜在する能力・可能性としての力）に着目したアートプロジェクトを計画しています。中でも「湊川隧道」は、歴史を概念ではなく生きた現実の出来事として眺める【まちの財産】として欠くことのできない磁場と捉えています。

この貴重な存在を保存する活動に敬意を込めて、僭越ながら新開地誕生100年の饗宴が「湊川隧道」を讃える契機になれば幸いです。



新開地アートストリート（SAS）
「湊川新開地ガイドブック」
参照HP = <http://kavc.or.jp>

神戸アートビレッジセンター
神戸市兵庫区新開地5-3-14
TEL078-512-5500

湊川上流の西尾根上の鷺越道

園田学園女子大学教授 田辺 真人

古来、都と西国を結ぶ山陽道は天王山麓で京都盆地から出ると、大阪平野を南西に横切って芦屋市東部で海辺に出、六甲山地と大阪湾岸に挟まれた今の神戸市街地を西に進んで播磨国に通じていた。途中、池田市あたりでこのルートから分かれ雀ヶ丘・長尾山系の南麓を西進して宝塚付近で武庫川を渡って、六甲山地の北麓を通って生瀬・船坂・有馬を経て、箕谷から三木に向かう交通路もあった。

六甲山地の北と南を並行するこれらの道を結ぶために、山地を南北に横断する山越え道もあった。これら山越え道の多くは、時代を超えて今も大きな交通量を誇っている。東方では「船坂越え」と呼ばれた船坂・西宮ルートが峠の下をトンネルで抜ける西宮北有料道路となり、有馬から最高峰の東肩を越えて神戸市東端に下りる「魚屋道」は人気のハイキングコースとなり、篠原・唐櫃間の「唐櫃越え」はほぼ表・裏六甲ドライブウェイと並行する。小部峠を越える「天王越え」は、今も有馬街道と呼ばれて山地中央部の南北道で、山地西部で板宿から「白川峠」を越える道路とともに、朝夕のラッシュは深刻である。

このような六甲山地を南北に横断する古道の代表格が「鷺越道」だ。この道は、湊川流域と竜王川流域の間の南北に続くいわば分水嶺の上を進む山道であった。『平家物語』は、一の谷の戦いに際して平氏が鷺越の麓に配備した山の手軍の陣容を、前衛は平盛俊、主将は教経、側面に通盛と記している。神戸では古くから盛俊は名倉町で奮戦し、教経の陣は夢野の氷室神社付近と伝えられ、烏原にあった願成寺に通盛の石塔が遺っていた。藍那から鷺越道を通って高尾の峠を越えると、海岸部を見渡す今の鷺越墓園正門あたりに出る。そこから尾根伝いに本道を進めば夢野に、東の石井川（湊川の支流）の谷を下ると烏原に、墓園正門から西の谷に下れば名倉町から長田に至る。平氏は見事にこの山越え道の本道・支道の南麓三か所に陣取っていたのである。一方、生田の森と一の谷の間に展開する平氏軍の中央突破を計って、この道を通って福原・兵庫の背後を攻撃しようとした源義経の作戦もまた見事であった。

湊川隧道について その4

‘湊川新開地産みの親’ 武岡豊太について

兵庫県県土整備部土木局河川整備課 佐々木 良作

今年は、湊川新開地生誕100年という記念すべき年である。明治期の湊川付替え工事の様子を伝える本などに記されている人物の一人に「武岡豊太」がいる。明治30年に設立された湊川改修株式会社の支配人として事業に携わり、新開地開発後は、聚楽館の社長として活躍し、文化事業にも貢献するなど、まさに湊川新開地産みの親と言える。

武岡豊太は、1864年（元治元年）、淡路島三原郡新田南村で生まれ、少年時代は学芸に励み、14才で小学校の補助教員、後に賀集小学校の訓導になり、明治19年、三原郡出身の県会議員であった藤井一郎が明石郡長に就任した時、明石郡役所の学務係に抜擢される。その後、藤井一郎に代わった渡辺徹明石郡長の知遇を得た豊太は、灘酒造組合の世話をし、28才で兵庫共済株式会社の社長になり、和田岬発展のため和楽園の経営を任せられる。このように次々と移り変わる時代の中で経営能力を發揮するが、あたかも豊太の登場を待っていたかのように湊川改修株式会社が設立され、藤井一郎が社長に、豊太は支配人として34才の若さで工事の計画立案と経営に当たることになる。

湊川付替え事業は、4年余りの大工事であったが、完遂するとともに、引き続く新開地造成も支配人として会社経営を取り仕切った。湊川隧道築造は、当時としては高度の土木技術を要する難工事であり、新開地の開発、聚楽館建設には多くの困難があったと思われるが、持ち前の才覚で見事に乗り切っている。

大正4年に神戸市会議員になる一方で、樂山と号し、国史の研究や浮世絵の収集に意を注ぎ、郷里の公会堂建設に寄付するなど慈善事業、社会事業に尽くし、郷土の瓦平焼を広く紹介することにも努めている。昭和6年に68才で病没したが、波瀾にとんだ生涯であったと思う。昭和13年、郷土の方々により北阿万農協会館前に顕彰碑が建立されている。

なお、湊川隧道保存友の会の活動を通じて、豊太のお孫さんにあたる武岡吾郎氏（東京都在住）にお会いする機会があったが、私にとっては、それまで名前のみを知る立志伝中の人物「武岡豊太」が身近な存在であり時代が遡るような不思議な経験だった。

お知らせ

平成16年度の活動記録

- ・平成16年7月19日(祝・月) 「湊川隧道保存友の会」講演会開催
場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれいあい会館）
題 名：「六甲山系の土砂災害と新湊川流域の地盤特性」
講 師：沖村 孝（神戸大学都市安全研究センター教授）
参加者：82名



- ・平成16年9月12日(日) 「新湊川まつり」に協賛して湊川隧道の一般公開
主 催：新湊川を守り育てる会
隧道見学者数：約600名
- ・平成16年11月3日(祝・水) 「石井ダム試験湛水記念 新湊川ウォーク」に協賛して湊川隧道の一般公開
主 催：兵庫県神戸県民局、神戸電鉄（株）
隧道見学者数：約820名
- ・平成17年3月20日(日) 「湊川隧道保存友の会」総会・講演会
場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれいあい会館）
題 名：「文化による復興活動」～阪神・淡路大震災から10年を経て～
講 師：島田 誠（ギャラリー島田 アート・サポートセンター神戸）

新湊川河川防災ステーション(兵庫区東山町)が完成



災害時は水防や復旧活動の拠点となり、平常時はコミュニティーの場となる「新湊川河川防災ステーション」が兵庫県と神戸市により整備され、平成16年4月24日に完成式が開催されました。

集会室、調理室、和室などが配置された建物は「新湊川ふれあい会館」、築山、せらぎ水路、防災トイレなどが整備された広場は「新湊川ふれあい広場」と愛称が付けられ、地域の方の交流施設として利用されます。

この施設の日常管理は、約60名の地域の人で組織化された「新湊川ふれあい会館運営委員会」が行います。

湊川隧道保存友の会

役員紹介

会長	神吉 和夫	(神戸大学工学部助手)
副会長	本地 真穂	(「月刊センター」編集長)
理事	田辺 真人	(園田学園女子大学国際文化学部教授)
//	吾妻 義信	(東山地区防災福祉コミュニティ委員長)
//	原 秀雄	(東山地区防災福祉コミュニティ副委員長)
//	佐々木良作	(兵庫県県土整備部土木局河川整備課長)
事務局長	市成 準一	(神戸大学都市安全研究センター技官)
監事	久武 勝保	(近畿大学理工学部教授)
//	川崎 芳雄	(「新湊川を守り育てる会」会長)
顧問	西田 一彦	(関西大学工学部教授)
//	馬場 俊介	(岡山大学環境理工学部教授)
//	芦田 勝	(元 神戸市兵庫区長)

* 事務局長及び会計の変更

湊川隧道友の会発足以来、本地真穂様に副会長兼事務局長及び会計を務めていただきましたが、平成16年度から事務局長に市成準一様、会計に永喜美代子様と上野展子様にお願いすることになりました。よろしくお願いいたします。

【事務局】

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
「神戸大学 都市安全研究センター」内
市成 準一
TEL 078-803-6064 FAX 078-803-6394
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~ichinari/minazui.html>

平成17年度の行事予定

- ☆平成17年 7月上旬 「湊川隧道保存友の会・講演会」開催予定
場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）
内 容：未定
- ☆平成17年11月3日（祝）「新湊川ウォーク（第3回）」開催予定
ルート：石井ダム～烏原貯水池～新湊川
内 容：このウォークに併せ「湊川隧道」公開予定
主 催：神戸電鉄（株）、後 援：神戸県民局・湊川隧道保存友の会
- ☆平成18年 3月下旬 「湊川隧道保存友の会・総会」開催予定
場 所：新湊川河川防災ステーション（新湊川ふれあい会館）
内 容：総会と併せて「講演会」を予定

その他連絡事項

◆レンガの販売について

隧道見学会および一般公開でも販売しました煉瓦にまだ在庫があります。
この煉瓦は、湊川隧道に実際に使われていた明治時代の煉瓦です。この煉瓦販売による収益は、
『湊川隧道保存友の会』の活動資金として使用されています。

◆会費の納入及び新規会員募集について

- ・平成17年度会費の納入は原則として4月末日までにお願いします。
- 【平成16年度総会（平成17年3月20日）出席の会員の皆様は、総会の受付にて会費を徴収させていただきます。】
- ・平成17年度新規会員を募集しています。知り合いの方々にお声をかけていただき会員を増やしていきましょう。
- ・一般会員以外に法人会員も受け付けていますので、企業、団体関係者の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いします。

会 費：一般会員 1,000円／年
法人会員 10,000円／年（一口以上）

◆平成17年3月現在の法人会員の紹介（五十音順）

株式会社 新井組	株式会社 エイトコンサルタント
応用地質株式会社	株式会社 建設技術研究所
株式会社 サニ一商工	大成建設株式会社
西松建設株式会社	日本振興株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社	寄神建設株式会社